

## いよいよ正念場！

### 「公共施設再編計画」短期プログラムが動き出す！？

日時：2018年5月27日（日） PM2：00～4：30

場所：町田市民フォーラム 第2学習室

参加者：18名

#### 1.あいさつ（蘭田）

会を結成して活動して1年がたち、4つの請願を市議会に提出。署名してくださった方はトータルで2万人位になり、そのエネルギーを負ってこれからの正念場を考えていきたい。

#### 2.報告

＜策定委員会の経過について＞（公共施設再編計画策定委員 増山）

2016.3. 未来づくりプランをもとに施設管理計画17-21ができ、庁内検討委員会が開かれた。

11. 策定委員会開かれる。委員11名（うち2名が市民からの公募）

2017.6. 第1回意見募集 90通集まる。

3000人アンケート

市民説明会(130名参加)

施設長寿命化を調査

2018.3～4 第2回意見募集 計57名・166件集まる。

高齢者からの意見の最多は「施設は身近に。集約は困る。」であった。他

「地域の充実を求める。」「お金の使い方への疑問」などが多かった。

5/31 最終会議。提言書提出。解散。

その後6月 市の実施計画が出される予定。

アンケートの結果をどう生かすか？

市はマネジメント委員会を立ち上げるほか、10月以降、地域に入って説明をするとのこと。

市民からの公募で委員会に参加した感想・・・、市民側の関心がうすい。

Q：委員は建設的に意見を闘わせているのか？

A：委員会のメンバー構成が、大学教授、建築代表理事、青年会議所、市の役職等11名。割り当てられた人で、この人たちの関心はうすいと言わざるを得ない。

委員長は、計画を進めることを第1に考え、建設的な意見を抑えてしまう。

会の進め方は、説明1時間、議論1時間、話し合いが少ない。

それぞれの立場からバラバラなことを言い、市長は別のことを言う状況で、最終回を迎えてしまった。5/31提言書を出す。委員会がつくられても、委員構成が問題。

図書館の統廃合の方向は変わっていない。

決定のプロセスはどうか、市民の請願を生かすしくみがないことが問題。

参加者A 傍聴に行っているが、定員5名ということが書いてあり、多数の参加がむずかしい。問い合わせると、一応5名にしているとの返答。なぜか？

応援ルームという複合スペースでの傍聴は、隣の話し声で会議の内容も聞こえず。

(増山) 傍聴のお知らせを広報に載せるよう要望してやっただしてもらった。

策定委員会の提言書は「市民の理解、議論をすすめる」などいいことが書いてあるが、ポーズで終わらせないためにできることはなにか？たとえば、読書推進委員会では、市民が計画を立ててやっているが。

#### < 4/20 提出した「意見書」について > (守谷)

2021年までの短期プログラムは6月に決まる。大変厳しいが、再編計画は、2055年まで長期にわたる。今後のためにがんばりたい。

資料 “わたしたちはこう考える！町田市の「公共施設再編計画」” 説明。

##### 1. これからの社会をどうとらえるか

限られた資源を有効に使い、持続可能をめざした議論を。

##### 2. 再編の真の目標と課題はなにか

だれもが住みたくなる町づくり

##### 3. 基本となるコンセプト

1) 基本の生活圏の重視

2) 施設の使いこなし

3) 財政全体の見直し

##### 4. 市民の参画

多摩市の例：自治基本条例があり、有効。全国では370の自治体が持っている。

町田市は、地区協議会が地域単位の活動を始めているが、再編計画がおりにないため、これに対する地域ごとの計画ができない状態である。

##### 5. 短期再編プログラムに関する具体的な意見

市民の生活と文化に直結する学校、図書館、美術館、博物館、集会施設、スポーツ施設、福祉施設について意見をまとめ、今以上の充実を求めた。市は、鶴川、南町田駅前開発、野津田、薬師池公園に大きい予算を計画し、「にぎわい」をつくらうとしているが、「安心」をきちんとやった上で、「やすらぎ」「おちつき」を大事にする根本的な議論をすることが必要である。

### 3.参加者からの意見

市議 (佐々木) 共産党

請願を担当した。

3月の議会では、「請願は重く受け止めるが5ヵ年計画をすすめる」とされた。

山崎の市民説明会は参加者十数人と少なかったが、開催のことがわかりづらかったし、パブコメもどう書いていいかわからないという人が多かった。

町田は、今若い人口が増えている。これまで社会教育を市民が盛り立ててきた。それをやすやすととられてなるものかと思う。

市議 (渡部) 市民クラブ(会派) 生活クラブ

自治基本条例が議会で否決された時の状況は、寺田市政で培ってきたものがスカスカになって出されたからだったと思う。その後そのままになってしまった。

歩いて行けるところに施設をとすることはいい。一方公共施設の維持管理費は財政を大きく占めており難しい。生活者ネットワークでも図書館の学習会をおこなった。「まちライブラリー」が市民

の力で増えることはいい。しかし図書館の代わりになるわけではない。図書館は図書館。人をつくることの大事さを思う。地区協議会とはがちりからんでやっていくべき。市民も市も、悩みながらいく。

市議（智田） 立憲民主党 市民クラブ

自治基本条例は必要。現状は、政策決定を市長に合わせており、議会では数の力で市長側に押し切られている。町づくりのスタイルは、ぶどうの房のように、地域を充実させること。

参加者B 玉川学園在住

市民の関心の低さが言われたが、それは市民がないがしろにされているからである。きちっと将来のビジョンをもって今あるものを大切に、維持管理費のかかる新しいものをつくってはいけない。一時的に花火をあげるような市政は閉塞する。

参加者C 建築家

40年経った建築は建て替えが必要なのか？維持管理をどう考えているのか、市議に尋ねたい。

市議

学校の耐震検査は終わっている。鉄筋は最大70年は持つと言われている。

参加者C

手入れしていけばもっと持つ。市は、必要ないと考えるものについては長寿命化を考えていない。さるびあ図書館は老朽化しているが、なぜひどくなっているのかを点検すべき。新しい建物は長寿命化に留意しているのか、チェックは？新しくできた多摩境小の40年後、50年後は大丈夫なのか、点検は？だれかが点検する必要がある。市庁舎のディテールは検討しているのか？工芸美術館もどういうチェックをするのか市民に説明する必要があるだろう。寿命はディテール・材料で決まる。

市議（智田）

確認する。議会には基本設計は出るが、そのあとの専門的な件からは離れてしまう。

（増山）

市は施設を少なくして“場”に移行する、そのためのコミュニティーバスはいっぱい出すと言っている。かつて公民館は人を育てたが、今は職員が企画力を無くし、イベントばかりやっている。

（藺田）

市庁舎の建物を市民がチェックすることは可能か？市民ホール側壁面の全面ガラスが適切なのか、環境負荷はどうなのか？

参加者B

ひなた村、市立博物館の施設はいい。いいものを大切にしたい。

参加者D

第三者委員会をどうするか？自治基本条例にどうもり込めるのか？われわれになにができるか、夢見る力が必要だ。町づくり企画会議をたちあげ、具体的な提案を。未来の会の提案の基本的なコンセプトにある「安心」「やすらぎ」は、年齢によって違うと考える。未来の会の計画案は、高齢者目線に若干こどもの立場が加わった感じ。若者が社会デビューするのを応援をする社会学習施設や、カウンターカルチャーとして具体的な提案を。エコミュージアム条例を作ることで獲得できることもあるのではないかと。たとえば、私は相原と橋本を結ぶ“屋根のないミュージアム”というアイデアを持っている。

市議（佐々木）

条例づくりは、市民から言っていくことで実現できると思う。

参加者D

市が委員会をつくるときは、結果を出すためにメンバーを調整する。以前、私がある委員会でどうしても赤字になると市長に示したら、うそでもいいから議会が納得できる案を出せと一喝されたことがある。

(鈴木)

5ヵ年計画は、行政報告になっている。議会で否決はできないのか？

市議 (智田)

議決事項にすると決めればできる。そうでなければ、会派根回しされて行政報告として出たものに代表質問をしたり、付帯決議をつけることがせいぜいである。

市議 (佐々木)

多摩市のパルテノン多摩の改修工事は議会で否決された。多摩市の議会は与野党の勢力が拮抗しているので、行政が出した案件が議会で否決されることもある。

市議 (東) 立憲民主

私は学芸員・司書の資格を持っている。施設は残す方向を考えている。

参加者F

玉川学園での説明会に出席。市の説明で、施設の処分は費用が大変で、議会の承認がいるとのことだったが、どうか？

市議 (智田)

処分の費用をどうするかで議論で、存続を議論するものではない。

参加者F

博物館存続の請願を採択した議会の責任はどうなるのか？請願法を重視しなければならない。

参加者

憲法で保障されている。

(増山)

図書館の存続の問題は、図書館協議会で審議後、教育委員会に諮り、教育長が決めるとなっている。

参加者D

地域ごとに企画会議をつくる必要があるのではないかと。市庁舎にはかつて市民企画室があり、専門スタッフがいた。

参加者G

自治基本条例が議会で否決されたあと、まちだ 1000 人会議、町づくり条例がでたが、それっきりになってしまった。

参加者A

市民協働推進課が2019年地域活動サポートセンターを設立すると告知している。

(守谷)

公民館は、市民大学と並立しており、連携できるように生涯学習センターのひとつ屋根でおおうことになったが、うまく連携できてない。

参加者A

10年前から生涯学習センターでプログラム作りをしているが、当時は運営審議会に力があつた。今は、講師派遣制度のお金も使えなくなり、困難である。

(守谷)

ここまで再編計画全体について進めてきたが、今後は個々の施設の問題をちゃんとやっていきたい。

**4.まとめ(藺田)** 今日の話し合いのポイントとして

1. 計画の決め方 委員会の問題(アリバイつくりのための委員会となっているのでは) 本当の意味での市民参加型になるべき。
2. 若い世代との連携。若い人の発想を取り入れたものとしたい。
3. 議員の方が4人も参加して下さった。議会ができることも知って、もっと手を組んで行きたい。今後、考えていく枠組みを考えていきたい。

**5.今後の予定(久保)** 第14回学習会「図書館について」 6/30(土)2時~4時、文学館第6会議室  
(記録・庄司)